



かどや通信

第53号

発行日：令和4年11月吉日

発行：かどや保存会

発行責任者：寺田 直喜／編集：廣野 克子

街角に楽し気な声響く なかまち竹あかりマーケット

鳥羽なかまち会が地域活性化のために開催している「なかまち竹あかりマーケット」が、十月十二日に開催され、イベントを待ち望んでいた近隣の人たちが黄昏時から大勢、なかまち界隈にあふれた。

今回の竹あかりは、従来形の竹に細工したものに加え、竹を細く裂きドーム状に組んで作るバンブードームと呼ばれるものも出現。西念寺の境内では夜の闇のなかで光を放ち、観客を魅了した。

出店数も増え、なかまちの拠点であるクボクリや指文字アートのアトリエ&カフェ・プリンクムではアクセサリーやバッグをはじめ



様々な手作り小物が並んだ。キッチンカーも多数でており、午後八時までなかまちなそこの楽し気な声が響いていた。

《かどやで恒例のコンサート》

かどやも竹あかりマーケットに併せて、午後四時半から午後七時まで恒例のコンサートをを行った。

第一部は、かどやに関係するメンバーが日頃の練習の成果を発表。第二部はかどやでもお馴染みの宮崎義明バンドによるジャズが演奏された。

第一部のトップは、ギターとウクレレの弾き語りの四人組・かどやゼンザーズが一九六〇年代のフォークソングを中心に演奏。続いてかどやで教室を開いている小唄とオカリナのメンバーによる成果発表が行われた。



最後はかどやでボランティアアシスタットとして活動しているピアノ教師のマーちゃんかどやが明治三十年代に製造された長尾オルガンでジブリの曲等を演奏した。

また、今回は各グループの交代時間を利用して、絵本の読み聞かせも行った。かどやでは今年六月



から絵本の楽しさを広めようと絵本の読み聞かせを始めたが、残念ながらまだ参加者は少ない。そこでコンサートにいられたお客様にも絵本の魅力に触れてもら

おうと実施。今回は「ハンツのき方」をはじめ、「わにさんどきうはいしやさんどきう」「オニのサラリーマン」「月人石」が読まれ、和やかな雰囲気広がった。

第二部の宮崎バンドは、伊勢市や松阪市を中心に活動しており、サクソフとベースギター、ピアノに女性ボーカルも加わり、ジャズやボサノバ等、おなじみの曲が演奏された。

この頃にはとつぷりと日が暮れており、軽やかで粹な音色がBGMのように街角にも流れていた。



地元の良いものを 鉛筆画でアピール

十月の展示は、「鳥羽なかまち」と伊勢志摩」と題した、南伊勢町在住の瀬古久司さんの鉛筆画展だった。瀬古さんは、日本の原風景である農漁村の風景と古い建物が好きで、定年を機に伊勢志摩の風景を、鉛筆で書き始め、今年で十年になる。



かごやでは、二〇一七年九月に「鳥羽二十景」二〇一〇年十月に「鳥羽の離島と伊勢志摩」を展示した。三回目となる今回は、前回の展示の際に「なかまち」と呼ばれているかごや界隈を散策して、昭和の香りの漂う風景に出会い、絵心がわいたそうだった。前回までは、白黒鉛筆での作品が多かったが、今回は色鉛筆の作品が増え、モノクロ写真とカラー写真のような違いも楽しめた。

に見てもらいたいと書き続け、作品はすでに四百八十枚を超えるという。「絵を見て何か懐かしい、落ち着く、安心する、そんな気持ちになっていただければ嬉しいです」と話す瀬古さん。緻密で懐かしさの漂う作品に見学のお客様は釘付けになっていた。

三人三様の個性が光る 珠玉の作品展

十月は「手仕事女流三人展」と題して、三人の女性による色鉛筆画と水引アート、ミニ着物の展示が行われた。

色鉛筆画のM・N・A・M・さんは松阪市内に勤務、水引アートは伊勢市の主婦・立野麻貴さん、ミニ着物は鳥羽市の主婦・森本ミヅ子さんの作品だ。



食べるのが好きなM・N・A・M・さんの作品は、リンゴや焼き芋、蓮台寺柿等の食品が多いが、どれも本物と見間違いない。

そうになるほど緻密なタッチで描かれている。色鉛筆画は五年前から始めたが、昨年五月からは水彩画の教室にも通い始めたそう。水彩画の作品等も二点展示された。

水引アートの立野さんは、「口ナ禍でステイホームが呼びかけられていた三年前に、水引のアート作品を知り、「これがやりたい」と、その日のうちに材料をそろえ、YouTubeや本などを参考に、独学で技術を習得した。今回は、正月用の鶴亀の掛け軸や、箸飾り、ランプシェード、アクセサ



リー等、立野さんのセンスが光る素晴らしい作品が並んだ。日頃、水引のアート作品をみる機会は少ないので、見学に来られたお客様は「素敵！こんな世界もあるのね」と称賛していた。

ミニ着物の森本さんは、若い頃から和裁も洋裁もしっかりと身



に着けていて、子供たちの洋服はほとんど手作りだったとのこと。本格的にミニ

着物に取り組んだのは、約十年前からだ。長年培った技術を生かした作品は、縫製が丁寧なのはもちろん、難しいと言われている着物の柄合わせも素晴らしい出来栄で、見学者は皆大感激されていた。森本さんの年齢（八十五才）を聞いて、さらに驚き、「見習わなければ、すごいパワーをいただきました」と話す見学者も。

三人は、お互い面識はなかったが、どれもセンス溢れる秀作ぞろい。お客様からは「一か所で様々なジャンルの作品が見れて、楽しい」「いろんな才能を持った人がいるんですね。いい勉強になりました」「等のコメントが寄せられた。三人それぞれの珠玉の作品群に称賛の声が寄せられた。

優しい音色に癒されて 久々の二胡演奏会

第一百回かどや昼下がりのコンサート

「茶KURA」二胡クラブたんぽぽ

発表会が九月二十四日に開催され

た。伊勢市の中国茶房「茶KURA」

は、カルチャー教室も開いており、二

胡教室「たんぽぽ」のメンバーが成果

を発表した。茶KURAの二胡教室

は、平成元年七月に剣山啓助さんが

指導するグループが発表した。今

回はジャズボーカリストとしても活

躍している林佐理さんが

講師のグループだ。

前半の成果発表は、沖

縄の子守歌をはじめ、「荒

城の月」や「テネシーワル

ツ」など懐かしい六曲が

演奏された。

後半は、林さんがまず

弦の使い方等、楽器の説

明をしたあと、「ムーンリ

バー」「愛の賛歌」など馴染みの七

曲を披露。

柔らかで、

しかも力強

い音色に拍



手が鳴りやまず、アンコールには一胡の名曲で馬が草原を駆ける様子を描写した軽快な「賽馬(さいま)」が演奏され、大喝采の内に幕を閉じた。

朗読でも歌でも、聴衆を圧倒!

色鉛筆画を展示中のM-INAMIさんは十一月六日、「M-INAMIとジャズと朗読」と題したライブを行った。

M-INAMIさんは超多趣味で、色

鉛筆画をはじめ、ピアノや彫金、革

細工、エレキギター、朗読、演劇等、

様々な教室に通っている。これはあ

る日、子供の頃からの夢や、やりたか

ったことをまだ何もやってないと思

つぎ、全部やっておきたいと、職場を

早期退職し、まず最初にジャズボー

カルのレッスンを始めたそうだ。かど

やでも数年前からジャズストリオのボ

ーカルとして出

演してくれた

が、今回はさら

に声に磨きがか

かり、高音から

低音まで張りこ

艶が増し、聴衆

を魅了した。



前半は「コアラとスミレ」を朗

読。情景が目につ

かぶような臨場

感を醸し出して

いた。後半は、ジ

ャズはもちろん、

オペラやロックの「ボヘミアン・ラプソ

デー」等、幅広いパートリーを披

露した。歌唱力のすばらしさに加

え、曲によつては、パ・ペットや箏など

意表を突く小道具を使い、サービ

精神満載の演出が、お客様的心をガ

ツチリつかんだ。「いつまでも聞いて

いたい気分です」等のコメントもいた

だき、大盛況だった。

水引で縁結び

第八十六回かどや塾は「水引結び

体験」と題し、二階で展示中の水引

アートの体験教室が十一月十三日の

午前と午後に分かれ、各教室に五名

ずつ参加した。

今回は、水引の基本である「あわじ

結び」と「梅結び」をマスターして、

かわいいポチ袋の作り方を習得し

た。立野さんは講師を務めるのは初

めというが、分かりやすく解説し

た資料を準備し、丁寧な説明が好評だった。水引の結び方だけでなく、ポチ袋の折り方もしっかりと解説・指導したので、参加者はお互いに出来上がったポチ袋を嬉しそうに披露していた。

アンケートには「楽しかった」「丁寧でよくわかった」「違う結び方も知りたい」「難しかったが参加して良かった」等のコメントが寄せられた。「家に帰ってから早速、作りました。来年のお正月のお年玉は、手製の袋で渡します」という事後報告も届いた。

講師の立野さん曰く「水引結びは『清らかなモノのしるし』『縁を結ぶ』『物事の成就を結ぶ』と言われてる日本に伝わる縁起物です。この良きモノを普段の生活で使ってもらえるよう、まず自分自身が覚えていくウキウキすることを大切にしています」と話してくれた。

なお、好評につき一月から教室を開講予定。



修学旅行生、なかまちを散策

和歌山県有田川町立八幡中学校の生徒十名と教諭二名が十月二十五日、修学旅行で鳥羽市を訪問。鳥羽水族館見学後、SDGsをテーマに、なかまちを散策した。

中之郷会館でなかまちの簡単な説明を聞いてから、なかまちの拠点であるクボクリをはじめ、元理髪店を改修したおにぎりカフェ「うさぎのしっぽ」や西念寺に立ち寄ってから、かどやにやってきました。当日は、休館日だったが、午後だけ臨時開館し対応した。



説明を聞いてもらうのだが、今回は元中学校教諭でかどやのボランティアアスタツフのカヨさんの提案で、生徒たちが自由に館内を探索し、疑問点を

到着するとまず、裏千家の千草先生率いる茶道教室メンバーの指導の下、各自で抹茶を立てるお点前体験。その後、普段なら館内の

を洗い出し、その質問に答えていくアクティブ・ラーニングを実施した。続いて、明治三十年代に造られた長尾オルガンを、これまたボランティアアスタツフで、ピアノ教師のマーチやんが、若者に人気のジブリの曲を演奏。最後は讃美歌「アメージンググレース」でしつとりと締めた。

その後、宿に向った生徒たちからは「普段できない体験ができて楽しかった」「自分から疑問を探すことは大変だったけど、面白かった」等の感想が寄せられた。

千草先生は「落ち着きのない年ころなのに、正座もきちつとでき、礼儀正しかったので感心しました」と感激していた。茶道教室のメンバーは、体験教室のために全員私服で参加。「疲れたけど、私たちにとてもいい勉強になりました」と話してくれた。

修学旅行生の受け入れは初めてだったが、かどやにとっても意義深い体験となった。



◆◆◆ 貸部屋の案内 ◆◆◆

かどやを有効に活用していただくため、一部の部屋を貸部屋として貸し出しています。茶話会や勉強会、展示会などに活用ください。詳細は、かどやへ。

電話〇五九九二五八六八六

時間区分 部屋	午前	午後	全日	冷暖房設備 利用料
	10時～12時	13時～16時	10時～16時	
座敷南(10畳)	500円	600円	1,100円	500円
座敷北(8畳)	400円	500円	900円	—
仏間(6畳)	300円	400円	700円	—

- ・営利目的の場合は、料金表の10割増しとなります。
- ・鳥羽市民または市内勤務者以外の利用は、料金表の5割増しとなります。
- ・許可された利用時間を超過する場合は、割増料金が発生します。
- ・冷暖房費は、全日使用の場合は2倍になります。

かどや保存会 令和4年度会員募集中!

かどや保存会は、歴史的文化財である「鳥羽大庄屋かどや」の保存ならびに効果的な活用・運営をめざして活動を続けており、当会を支援して下さる会員を募集しています。

ピーク時の平成30年度は会員数が351名でしたが、残念ながら以後年々減少しています。しかし、コロナ禍にも関わらず、令和4年度は11月20日現在で255名の方から新規や継続のお申込みをいただきました。皆様からのご支援を心より感謝いたします。コロナの収束にはまだ時間がかかるものと思われそうですが、感染防止対策を強化しつつ、皆様の憩いの場所となるよう、これからも日々努力を重ねてまいります。手続きがまだの方も引き続きご支援いただきますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

令和4年度(令和4年4月1日～令和5年3月31日)の年会費(1口2,000円)は、継続・新規を問わず、以下の方法で納入してください。

(1)手渡し：かどやにお越しいただき、直接事務局にお支払いいただく。

(2)銀行振込：郵便局 当座 かどや保存会 00850-4-151751